

令和 8 年度 学校経営計画

東京都立杉並工科高等学校
校 長 阿部 裕一

I 目指す学校像

IT・環境科での学びを通して、技術と社会のつながりに目を向けながら、さまざまなテーマに挑戦していく。また、多くの授業や実習に取り組むことで、考え方の幅を広げ、専門的な力を伸ばし、自ら学び続ける姿勢を育てる。

進学指導等の充実事業推進校として、計画的な学習サポートや進路指導を実施し、学力や実践力を高め、充実した進学指導を推進する。

(1) スクールミッション

「IT を活用して、環境問題など社会の課題を解決に導く人材を育成する」を教育目標とし、体験的・課題解決型の教科横断的な学習を通じて幅広い教養を身に付け、専門的な知見を深めるとともに、生涯にわたって学び続ける力を育て、社会の課題を解決に導く生徒を育てる。

(2) スクールポリシー

① グラデュエーションポリシー

- ・ 目標とする大学へ進学するための学力を身に付ける。
- ・ 幅広い教養を身に付け、生涯にわたって学び続ける姿勢を育てる。
- ・ IT スキルおよび環境リテラシーを身に付け、より高度な学びに向かう姿勢を育てる。
- ・ Society5.0 社会における環境問題など社会の課題を解決に導く志を育てる。
- ・ 自他を思いやる心、仲間と協働してものを作り出す力を育てる。

② カリキュラムポリシー

- ・ IT、環境に関する教科から普通教科まで、幅広く学習できるカリキュラム編成
1、2 年生は、必修科目を中心としたカリキュラムにより、基礎から応用までバランスの取れた学力を身に付けます。3 年生は、自由選択科目をおくカリキュラムにより、生徒一人一人の進路目標に必要な学力を身に付けます。
- ・ 体験型・課題解決型の教科横断的な学習
IT や環境をテーマに探究的な学習活動を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、「思考力・判断力・表現力」を育み、他者と協働して課題を解決する力を身に付けます。
- ・ 大学へ進学するためのプログラム
連携関係を結ぶ大学の特別講義やゼミへの参加などを行うことで、高校の学びの先の大学を意識させます。
英語検定 2 級、数学検定 2 級、IT パスポートに全員が合格することを目指し、放課後補習やオンライン教材による自学習を充実させます。
外部模擬試験で成績の定点観測を行い、授業で弱点教科を改善し、得意教科の伸長を目指します。

③ アドミッションポリシー（求める生徒像）

- ・ IT や環境に興味・関心があり、将来は大学に進学する意思を持って積極的に授業に取り組む生徒
- ・ 中学校で学ぶ基礎学力をしっかりと身に付けている生徒
- ・ 学校行事、部活動、生徒会活動等に積極的に参加し、自他を思いやり、仲間と協働することができる生徒

Ⅱ 中期的な目標とその達成に向けた方策

中期的な目標と方策

(1) 学習指導

- ① 大学進学に必要な基礎学力の確実な定着を図るとともに、志望校に応じた発展的学習を計画的に実施し、到達度を可視化したきめ細かな指導を徹底する。
- ② 探究活動を系統的に展開し、課題の設定・情報収集・分析・まとめ・発表を通して「思考力・判断力・表現力」を総合的に育成する。
- ③ DX推進校としての強みを生かし、プログラミングやデータ活用を含む IT スキルの習得を進めるとともに、課題解決を目指した授業の充実を図り、実社会で求められる能力を育成する。
- ④ 主体的・対話的で深い学びを重視し、生徒の理解度に応じた指導方法を工夫することで、学習意欲を喚起し、学ぶことの意義を実感できる分かりやすい授業を展開する。

(2) 進路指導

- ① 希望する進路の実現に向けて探究的な姿勢を育み、幅広い知識と教養を身に付けさせるとともに、変化の激しい社会において自ら学び続ける力を備えた人材を育成する。
- ② キャリア教育を体系的に充実させ、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育て、社会の中で自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を主体的に選択できる力を身に付けさせる。
- ③ 一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす観点から、進路選択の最終段階まで生徒の挑戦を支援し、最後まで粘り強く取り組ませる進路指導を徹底する。
- ④ 英検・数検・IT パスポート等の資格取得や検定受験を計画的に推進し、目標達成による自信と自己肯定感の向上につなげるとともに、進路選択の幅を広げる。

(3) 生活指導

- ① 全教職員の共通理解と協働体制を基盤に、日常の指導を積み重ねることで、生徒の規範意識を着実に高め、望ましい生活態度の定着を図る。
- ② 保護者との信頼関係を構築し、家庭と学校が一体となって粘り強い指導を継続することで、遅刻・欠席を防ぎ、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
- ③ 充実したホームルーム活動を通して、コミュニケーション能力や人間関係の形成力を育てるとともに、SNS 利用に関する正しい知識を身に付けさせ、トラブルを未然に防止する。
- ④ 警察署や外部専門機関と連携し、危機回避能力と公共のルールに対する理解を深めることで、生徒が事件・事故に巻き込まれないための健全な倫理観を育成する。

(4) 特別活動・部活動指導

- ① 特別活動の充実を図り、行事や委員会活動、学級経営を通じて、生徒が主体的に関わり合いながら社会性や協働性を身に付け、学校への帰属意識を高める。
- ② 部活動の活性化を進め、心身の健康と体力の向上を図るとともに、技術・技能の向上に向けた計画的な取組を推進する。あわせて、競技力向上の過程で培われる思考力・判断力・表現力を磨き、人間力の育成につなげる。
- ③ 本校の魅力を広く発信するため、ホームページや SNS を積極的に活用し、学校生活や活動成果を効果的に伝えることで、本校への理解と志願者の増加を図る。
- ④ 海外学校間交流推進校として、国際的な視野を育む学習機会を提供し、異文化理解・コミュニケーション能力を高め、グローバル社会で活躍できる人材の育成を推進する。

(5) 学校生活と健康づくり

- ① 教育相談を重視し、生徒一人ひとりに寄り添った親身で粘り強い支援を行い、悩みや不安を早期に解消できる体制を整える。
- ② 保護者や外部機関と連携して学校保健活動を充実させ、生徒の心身の健康を守るとともに、生命尊重（自殺予防）や安全確保に関する指導を徹底し、安心して学べる環境を維持する。

- ③ 生徒同士が互いを尊重し、安心して意見を交わせる関係づくりを進めることで、落ち着いて過ごせる学級・学校の雰囲気を作る。また、相談しやすい環境を整備し、困りごとを早期に支援へつなげる体制を強化する。
- ④ 全ての教育活動において生活指導を徹底し、基本的な生活習慣やルール・マナーの確実な定着を図り、社会で通用する規範意識を育成する。

(6) 募集・広報活動

- ① 地域との連携を推進し、小・中学校および地域社会に対して、本校の特色ある教育内容や学びの成果を積極的に発信し、学校への理解と信頼を高める。
- ② 学校説明会・授業公開・体験入学などの募集行事を計画的に工夫・改善し、受検生および保護者の満足度を高めることで、「推薦に基づく選抜」および「学力検査に基づく選抜」における応募倍率の向上を図る。
- ③ 地域連携をさらに拡充・開拓し、地域行事や企業・団体との協働を通じて、本校の魅力と教育成果を効果的に発信し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ④ ホームページやSNS、動画コンテンツなど多様な広報媒体を活用し、ICT時代に対応した戦略的な情報発信を強化することで、本校のブランド力を高め、志願者の確保と地域からの支持を拡大する。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 学校管理運営規定に基づき、組織的・計画的な学校運営を推進し、教職員が共通の教育目標の下で協働できる体制を整え、学校全体のマネジメント力を高める。
- ② 高いコンプライアンス意識と倫理観を備えた教職員集団を育成し、説明責任と透明性を重視した学校運営を徹底することで、生徒・保護者および地域社会からの信頼を強化する。
- ③ 学校経営上の課題を組織横断的に検討し、データに基づく改善や業務効率化、教育活動の質向上につながる新規事業を積極的に提案・実施できる体制を整える。
- ④ ICTの活用や校務分掌の連携強化により、教職員の働きやすい環境を整備し、持続可能な学校運営と教育の質の向上を図る。

Ⅲ 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

1 今年度における取組目標

IT・環境科の生徒に対して、大学進学を含む多様な進路を見据えた進路意識を育てるとともに、基礎学力の確実な定着と探究心の育成を推進する。各学年において教育の質を維持・向上させ、生徒一人ひとりの力を伸ばし、希望する進路の実現につなげる。

また、DX推進校として教育活動に必要な環境整備を進め、ITスキルや情報活用能力の育成に資する授業改善とカリキュラムの充実を図り、時代の変化に対応できる学びを実現する。

2 達成に向けた具体的方策

(1) 学習指導 《わかる授業の一層の充実》

- ① 各教科で課題解決型学習を推進し、実社会と接続したテーマを扱うことで、生徒の探究心・思考力・創造力を高める。
- ② 課題解決型学習の質向上のために、他校種・企業・大学・外部講師との連携を広げ、現実の課題に根差した学びの機会を提供する。
- ③ 総合的な探究の時間と連動させた実社会接続型の課題研究を教育活動の集大成として位置付け、成果が可視化される学習サイクルを構築する。
- ④ 年間指導計画と単元構成を明確化し、AL的手法（主体的・対話的で深い学び）とルーブリック評価を活用して、指導と評価が一体化した授業を実践する。
- ⑤ 一人1台端末を効果的に活用し、ICTによる個別最適な学びと協働的な学びを両立させ、授業の質と効率を高める。

- ⑥ 長期休業中の補習・講習を充実させ、学習習慣を確立し、進路実現に必要な基礎学力の確実な定着を図る。
- ⑦ 「杉工寺子屋」を計画的に運営し、既習事項を含む再学習・弱点補強により、生徒の基礎学力を底上げする。
- ⑧ 生徒にとって有用な資格・検定を体系的に整理し、計画的な取得支援を行うことで、専門性の向上と自己肯定感の育成につなげる。
- ⑨ 学校図書館の機能を拡充し、教科指導・探究活動における資料収集・調査・分析の拠点として活用し、自ら調べ学ぶ姿勢を育成する。
- ⑩ 少人数・習熟度別指導の効果を検証し、個々の学習ニーズに即したきめ細かな指導を徹底することで、理解を深める「わかる授業」を確実に実現する。

(2) 進路指導 《生徒一人ひとりの能力を伸ばし、自己実現を支援》

- ① 「進路の手引き」「進学の手引き」を基に3年間の系統的指導計画（年次の到達目標・指導内容・評価・支援を明確化）を運用し、進路ガイダンスを計画的に実施する。
- ② 進路調査・模擬試験・資格取得状況・出欠・学習記録等のデータを統合して個別進路プランを作成し、面談記録とPDCAにより適性・意欲に即したきめ細かな指導を行う。
- ③ オープンキャンパス・体験授業・企業見学への参加を計画化し、事前の目標設定と事後の振り返りを徹底して、進学意識の内面化と学習意欲の継続的向上につなげる。
- ④ 高大連携（出前講義・合同ゼミ・高大接続講座等）を展開し、学問理解と職業観の形成を促して、志望理由書・学修計画（スタディプラン）に反映させる。
- ⑤ 学年集会・面談週間・個人面談・保護者面談を体系的に配置し、小論文・面接・プレゼン・ポートフォリオの継続指導を通じて、総合型・学校推薦型・一般選抜の最終局面まで伴走する進路指導を徹底する。

(3) 生活指導 《基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成》

- ① 朝の立ち番指導を継続的に実施し、時刻遵守・身だしなみ・あいさつなど基本行動を毎日確認することで、礼儀・規律に対する意識と行動習慣の定着を図る。
- ② 保護者と連携した生活リズム改善指導を行い、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の見直しを支援し、健全な学校生活を維持する力を育てる。
- ③ 自転車通学者に対して、ヘルメット着用の徹底と交通ルールの遵守を指導し、注意喚起を通じて、事故の未然防止と安全意識の向上を図る。
- ④ 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ・暴力は許さないという明確な姿勢を示し、学校いじめ対策委員会の定期開催や教職員間の情報共有を強化することで、未然防止・早期発見・早期対応の体制を確立する。
- ⑤ 授業やセーフティ教室を通して、ネットリテラシーと情報モラル（SNSの使い方・個人情報管理・著作権・AIの適正利用など）の指導を徹底し、安全で責任あるICT活用を身に付けさせる。

(4) 特別活動・部活動指導 《学校行事・部活動・生徒会活動の活性化》

- ① 新入生への部活動ガイダンス・体験入部を計画的に実施し、2年次以降の継続支援と新規勧誘を併せて行うことで、加入率の向上と定着を図る。
- ② 部活動指導方針に基づき、生徒主体の運営（目標設定・役割分担・振り返り）と発表・対外試合等の機会を確保し、活躍の場の創出と組織運営力の育成につなげる。
- ③ 生徒会の自立的活動を推進し、議案審議・企画運営・情報発信を段階的に任せることで、自治力・リーダーシップ・合意形成力の向上を図る。
- ④ 学校行事や集会に生徒が主体的に関わる仕組みを整え、行事の教育的価値と魅力を高めるとともに、生徒自身が学校文化をつくり出す体験を通して、学校への愛着と帰属意識を育む。
- ⑤ 地域行事・公共団体・企業・大学等との連携プログラムを通じて、社会参画意識と公共心を育成し、学びを社会につなぐ経験を広げる。
- ⑥ 海外語学研修や国際交流プログラムの実施に加え、授業・行事における異文化理解・英語運用・プレゼンテーションの機会を組み込み、国際的に通用する資質・能力の育成を推進する。

(5) 健康・安全・防災 《健康教育、安全教育等の推進》

- ① スクールカウンセラーや学校医等と連携し、教育相談と健康教育を充実させ、個別の配慮や支援が必要な生徒の心の健康と学習意欲を支え、安心して学校生活を送れるようにする。
- ② 感染症対策と環境整備を徹底し、清掃活動を計画的に進めることで、生徒が安心して過ごせる安全・衛生的な学習環境を維持する。
- ③ 特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を強化し、個別の支援計画に基づく対応を進め、不登校・中途退学の抑制につなげる。
- ④ 防災体制を整え、地域・関係機関と連携した実践的な防災教育と年4回の訓練を充実させ、自助・共助の力と防災意識を育てる。

(6) 募集・広報活動 《本校の教育の良さを紹介》

- ① ホームページやSNSを計画的に更新し、授業・行事・生徒の成果を学校全体で共有・発信することで、本校の教育の良さを分かりやすく示し、受検生・保護者・地域の理解と関心を高める。
- ② 学校パンフレットを整備し、学習塾・中学校訪問や体験授業・体験入部と連動させて配布することで、本校の特色と学びの実像を的確に伝える。
- ③ 授業公開、学校見学会、学校説明会、個別相談会を年次計画に沿って適切な時期に実施し、在校生の協力も得て、来校者が学校像を具体的に把握できる機会を提供する。
- ④ 全教職員が役割分担のもと学校説明会等を運営し、充実した施設・設備を最大限に活かした展示や体験プログラムを提供することで、本校の魅力を実感できる機会を創出し、来校者満足度と募集活動の実効性を高める。
- ⑤ 学校開放事業を推進し、近隣中学校や地域団体等との連携イベントを通じて、地域に開かれた学校づくりを進め、本校への理解と信頼の定着を図る。

(7) 学校経営・組織体制 《高大連携、サービスの厳正、働き方改革の推進》

- ① 高大連携を計画的に推進し、大学等の見学・連携授業・研究室訪問を活性化するとともに、有識者の招聘を通じて生徒の学問理解と進路意識を高める。
- ② デジタル技術の活用により校務DXを進め、業務プロセスの標準化・効率化を図るとともに、ICT環境を最大限に活用して生徒の学びの質と機会を保障する。
- ③ 服務規律の遵守を日常業務の基盤とし、研修・事例共有・チェック体制の整備により、ヒューマンエラーを組織で防ぐ職場づくりを進め、服務事故の未然防止に努める。
- ④ 体罰・暴力・暴言を許さないという学校方針を明確にし、教職員研修や校内周知を継続的に行うことで、「しない・させない・許さない」という規範を確実に定着させる。
- ⑤ 管理職は教職員のライフ・ワーク・バランスに配慮し、業務の見直し・分担最適化・会議時間の適正化（職員会議は上限60分）を進め、時間外勤務の縮減と働きやすい職場環境を実現する。

(8) その他（IT・環境科の重点）《進学を想定した学力を伸ばす授業》

各教科は、1・2年の指導重点と年間授業計画を明確化し、学年共通の到達基準と評価観点を設定して、計画的に学力水準の引き上げを図る。

①（国・社・数・理・英）

大学進学を見据え、基礎の確実な定着と応用への展開を系統的に進め、思考力・読解力・表現力を高い水準で育成する。

②（体・芸・家・IT・環境）

実験・実習・制作を中核に、技能の精度向上と成果の言語化・発表を組み合わせ、学ぶ意欲と実践力を継続的に高める。

③（教科横断・カリキュラムの優位性）

普通科目とIT・環境科目の連動を強化し、教科横断の学びを通じて、課題に向き合い解決へ導く力の高度化を図る。

3 重点目標と方策（数値目標）－ 改訂版（測定・頻度なし）

（１）学習指導 《わかる授業・学力の底上げと伸長》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
生徒満足度（授業・学習環境）	授業の内容理解・説明・課題・ICTなどの主要観点について、アンケートや授業記録から学習状況を把握する。	把握した学習状況を基に、授業の計画→実践→振り返りの改善サイクルを継続して行う	満足度 80%以上
1日1時間以上の学習	平日の授業外学習時間（補習・自習・塾等）が60分以上と回答した生徒・保護者の割合をアンケートで測定する	朝学、放課後補習（寺子屋）や自習室を計画的に運用し、学習時間を確保しやすい環境を整える。	1、2年： 50%以上 3年：70%以上
生徒一人1台端末の活用	生徒が端末で調べる・まとめる・共有するなどの学習活動が行われているかを、授業の様子から把握する。	生徒が端末で調べる・まとめる・共有する学習活動を、授業の中で適宜取り入れる。	各教科：週1回以上（学期平均）
図書館活用	授業内の調べ学習・探究における図書館利用	図書館を調べ学習や自主学習の場として意識的に活用し、生徒が利用しやすい機会を増やす。	年間を通して、図書館活用の授業を複数回実施する。

（２）進路指導 《進路実現・選択の質向上》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
進路指導（個別相談）	進路指導満足度（学校評価アンケート）	個別相談・面談を計画的に実施 生徒一人ひとりの進路選択を支援する	満足度 90%以上
キャリア教育	① 活動後アンケート（OC・大学見学・探究）による満足度／② OC・研究室訪問の参加率	見学や体験を通し、職業・学問理解を深める。	満足度80%以上 参加率80%以上
資格・検定	英検・数検・ITパスポート等の受験者数／合格者数（延べ）	補習や補講を充実させ、進学等に生かせる資格取得につなげる	合格：延べ100名以上／受験：年150名以上

（３）生活指導・健康安全 《基本行動・安全・相談体制》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
遅刻・欠席	遅刻や欠席の状況を週ごとに把握し、前年と比較して改善の度合いを確認する。	立ち番や家庭との連携、個別の改善支援を通して、遅刻や欠席を減らす。	前年度比 10%以上減
ヘルメット	自転車通学者の着用率（抜き打ち点検）	登校時の指導や点検、保護者への周知を通して、ヘルメット着用を徹底する。	着用率100%
授業規律	授業中の基本的なルールやマナーが保たれているか、授業の様子から状況を把握する。	担当教員が基本的なルールとマナーを大切にし、規律ある授業づくりに努める。	前年度比 20%減

教育相談	相談状況の把握・校内ケース会議・校内研修	特別支援コーディネーターを窓口、粘り強い支援と早期解消につながる体制をつくる。	校内研修 年2回以上
中途退学	生徒の不安やつまずきを早期に把握し、必要な支援につながっているかを日常の様子から確認する。	情報を共有しながら連携し、生徒の状況に応じて継続的に支援する体制を整える。	前年度以下

（４）特別活動・部活動 《参加・継続・地域連携》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
行事満足度	体育祭や文化祭などの行事について、生徒の満足度や意見を把握する。	行事づくりに生徒が関わる機会を設け、行事後の振り返りを通して次につなげる。	満足度 80%以上
部活動加入率	部活動加入状況を把握する。	体験入部の機会を設け、継続しやすい環境づくりと広報を通して参加を促す。	加入率 70%以上 / 継続率 80%以上
地域連携	地域行事や発表、ボランティアなどへの参加状況を把握し、地域とのつながりを確認する。	地域と連携しやすい体制づくり。	延べ5回以上／年

（５）広報活動 《理解促進・来校機会の拡大》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
説明会・見学会	説明会や見学会の参加状況（延べ人数）の把握。	説明会・見学会を広報の柱として充実させる。	延べ600名以上
HP・SNS 更新	掲載本数（HP+SNS 合算）	週次発信を心がけ、学校の様子をタイムリーに伝える。	年間250本以上
中学校・母校訪問	中学へのPR機会を把握	中学校への訪問、魅力発信	各3校以上／年
外部説明会	参加回数	参加を通して学校の魅力を発信する。	年3回以上

（６）学校経営・組織体制 《ガバナンス・DX・働き方》

項目	測定方法と定義	方策	数値目標
服務事故防止研修	研修実施回数・参加率・理解度チェック	研修や事例共有で、初期対応を教職員間で共有する。	年3回以上
働き方改革	在校時間の実績・会議運営の実績	業務の見直しや会議の適正化を進め、働きやすい環境を整える。	在校時間：月80時間超ゼロ／会議：60分以内
地域パートナー	連携イベント・地域とのつながりを確認	小・中学・大学・地域団体と協働し、行事や活動を通して地域との関わりを広げる。	年5回以上